

<年年歳歳>その時期その場所にその花が咲かないのはいささか寂しいものです。この秋はフジバカマが消えホトトギスも心もとない様子です。その一方で「こんなところに！」と新たに見つけるささやかな喜びもあります。雑木林の縁辺に咲く“ゲンノショウコ”はこの数年見かけなかったものです。“現の証拠”、“良く効く”という意味です。タンニンが多く含まれ昔から下痢止めや胃薬として重宝されてきた民間薬です。この植物は“ミコシグサ”とも言い、種を飛ばしたあとの果柄の形が神輿（みこし）の屋根に似ています。



<ゲンノショウコ>

(年年歳歳) 唐詩「代悲白頭翁（白頭を悲しむ翁に代わる）」(劉廷芝)に「年年歳歳花あい似たり、歳歳年年人同じからず」とありますが、年々変わっていくのは人だけではありませんね。

<花に蝶>猛暑から一月ほどで気温がぐんと下がってきました。植物たちの対応も大忙しのようでキンモクセイや彼岸花(マンジュシャゲ)は1週間以上早く花を咲かせました。野辺や雑木林の周りも“ヒヨドリバナ”や“オトコエシ”が咲き出し



俄かに色 <ヒガンバナとアゲハチョウ><ヒヨドリバナとウラギンスジヒョウモン><オトコエシとヒメウラナミジャンメ>どりを増しています。蝶たちも好みの花の蜜を吸っているようで花を一層鮮やかにしています。そんな中“ツリフネソウ”は筒状の花弁の奥深くに蜜を忍ばせてハナアブのような細い体の昆虫を待っているようです。 <ツリフネソウとハナアブの1種>→



<秩序と無秩序>林の縁辺では“ガマズミ”や“コブシ”の実もすっかり色づきました。とりわけ赤い実の間に緑の大きな実の混じったガマズミは綺麗です。この緑の実



は“ガマズミミケフシタマバエ”(舌を噛みそう)が卵を生み付けた虫こぶです。池では“コウホネ”の不思議な形の果実が目立ちます。



<コブシの果実>



ところで、植物の花は「どうしてこんな形をしているのだろう」と思うほど不思議な姿をしているものが沢山ありますね。しかし凝った形のマンジュシャゲでも上からあるいは横から見れば花の付き方に対称性があります。またツリフネソウの花でさえ前とか上から見ると左右対称です。ほとんどの果実も何となく対称性があるとか整った形をしています。ところがコブシの実はどうでしょう。莢(さや)の端で枝から下がっている他はどうも無秩序でかえって

<上：ガマズミの果実と虫こぶ><下：コウホネの若い果実>

不思議です。

(文と写真： 松本正勝)